

・ 危害回避の可能性

回避可能かどうかで判定している

L	危害回避の可能性		条件
L1	A	常に可能	
	H	可能	
L2	A	あるとき、ある場合は可能	回避できる条件を記入すること
	B	一定の条件下で可能	
	F	ほとんど不可能	
	J	不可能	

④ リスクの評価、リスク低減の必要性に関する検討

リスク見積もりで区分した危害の大きさ(S)、発生確率(F)、危害に曝される時間(E)、回避の可能性(L)にそれぞれ重み付けをし、加算する。その値を重み値とする。

危害の大きさ		発生確率		危害に曝される時間		危害回避の可能性	
記号	重み付け値	記号	重み付け値	記号	重み付け値	記号	重み付け値
S 1	1	F 1	1	E 1	1	L 1	1
S 2	5	F 2	4	E 2	3	L 2	2

重み値からリスクレベルを決定し対応方策を決定する。

重み値	リスクレベル	リスクの判断区分	対応方策				
			管理の必要性	安全方策の実施	使用上の情報	本質安全設計	備考
4～5	I	些細	不要	不要			
6～7	II	軽微	必要	可能なら方策実施	使用上の情報のみでも可		
8～10	III	中程度		最低レベルに応じた安全防護の実施	使用上の情報で残留リスクの開示		情報に頼った方策は不可
11～12	IV	重大					
13～14	V	受入不可能		本質安全設計不可では、安全防護の実施		本質安全設計による方策を基本とする	